



イチゴの育苗技術と 間欠冷蔵処理による花芽分化促進

日時

2011年 6月30日(木) 13:30~17:00

会場

岡山大学 津島キャンパス 農学部1号館第3講義室

(岡山市北区津島中1-1-1)

イチゴ産地の維持拡大には、優良苗の確保と確実な花芽分化に努めることが重要である。しかし、収量性と品質重視の育種のため、依然としてタンソ病罹病性の品種が主流であり、タンソ病が各地で重大な被害を及ぼしている。また、花芽分化期の早い品種の育成と普及が進んでいるものの、地球温暖化にともなって開花・収穫期が遅れ、クリスマス需要期のイチゴ供給が不足する事例が頻発している。イチゴの収益性の向上と安定のためには、無病苗の増殖技術と簡便で低コストな花芽分化促進技術の開発が欠かせない。

このため、ポット受けによるイチゴ苗の増殖・育成にかわる省力的育苗技術と農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」によって現在開発が進められている「間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進技術」に関する研究内容を公開するとともに、産地発展のための課題等について、議論を展開する。

13:30

開会あいさつ

13:40~14:15

講演1:「空中採苗による挿し苗育苗技術」

岡山大学農学部 教授 吉田 裕一氏

14:15~14:50

講演2:「おがくずベンチを利用した無仮植育苗技術」

奈良県農業総合センター 総括研究員 西本 登志氏

15:00~15:25

講演3:「‘女峰’のトレイ苗に対する間欠冷蔵処理の効果」

岡山大学大学院自然科学研究科M2 尾崎 英治氏

15:25~15:50

講演4:「間欠冷蔵処理がイチゴ‘アスカルビー’および‘古都華’の花芽分化に及ぼす影響」

奈良県農業総合センター 研究員 佐野 太郎氏

15:50~16:15

講演5:「イチゴの間欠冷蔵処理における品種適応性評価」

奈良県農業総合センター 研究員 宍戸 拓樹氏

16:20~17:00

質疑・意見交換

17:20~

講師を交えての交流会(予約制、会費3000円)



講演会参加費は無料ですが、大学構内の駐車料金は1時間以上500円です。参加者負担でお願い致します。

主催:特定非営利活動法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会/農林水産省

共催:岡山大学農学部

後援:社団法人 農林水産先端技術産業振興センター

＜お問合せ・申込み先＞

特定非営利活動法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会(略称:NPO法人中四国アグリテック)

岡山市北区津島中1-1-1 岡山大学農学部3号館 102号室 <http://www2.ocn.ne.jp/~agritech/>Tel 086-237-3340 fax 086-201-0551 E-mail agri@key.ocn.ne.jp

お名前、ご所属、Tel & fax番号、交流会参加の有無をFAXしていただくか、同内容をメールでお送りください。

* 申込締切:2011年6月23日 定員80名